

一大プロジェクト「石巻♥花の種育て咲かそう大作戦」の特集号として作成しました。活動を終えて完成した花壇を見るととても明るく前向きな気持ちになります。石巻市門脇地区ばかりでなく被災された多くの人の元気や勇気の源になってもらえるのではないかと強く思いました。同時に継続することがさらに大切だと思い気を引き締めました。これからも皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

門脇♥花の種育て咲かそう大作戦

前々回第18号で紹介した石巻♥花の種育て咲かそう大作戦を6月22日に行いました。この日を迎えるに当たり事前調整にガールスカウトの代表者たちと現地に行ったり、参加する学校との打ち合わせを数回実施するなど良い思い出づくりになる様に準備してきました。石巻門脇の尾形さんからあずかった花の苗を市内全学校で大切に育てている子どもたちの様子も新聞に紹介してもらいました。

下野新聞平成25年6月19日



石巻市に植えられる花の苗を持つ子どもたち

那須烏山→宮城・石巻

【那須烏山】市内小中学校全校の児童生徒の代表者約110人が22日、東日本大震災の津波で被災した宮城県石巻市門脇地区で花の苗植えを行う。地元の被災者に贈られた種を預かって各学校で育てた苗で、子どもたちは約3千株の絆の苗とし

市内全校

絆の花被



読売新聞平成25年6月21日

2013年(平成25年)6月21日(金曜日)

宮城



各学校で大事に育てた苗を被災地に届ける(19日、那須烏山市立下江川中で)

那須烏山市の全学校、高校の計9生徒代表ら約110日、東日本大震災被害を受けた宮城門脇地区で、ヒマリスモスなどの苗約1株を植える。苗は那須烏山市内の各苗作りから準備された。花でいっばい被災地の人たちに「花でいっばい」といってほしいと願う。那須烏山市のボランティア団体「チーム龍(小堀道和キャプ)」の種育て咲かそう大作戦と銘打って「被災地を花畑に」という門脇地区の呼びかけに賛同。INが3月初旬、

石巻を花でいっばい

那須烏山の小中高生 苗作りから準備

市内全小中学校が花の苗を大切に育てている様子を伝える下野、読売各新聞

被災者へ思いを込めて丹精に育てる活動になったことで参加希望者が殺到しバスの定員調整に悩まされる毎日でした。市長にも子どもたちと一緒に活動していただきました。今回の活動については読売新聞に投稿予定であり、原稿に沿った内容で紹介いたします。

東日本大震災の苦難を心の糧に変え自ら考え進んで行動する子どもを育てたい

バス3台子ども57名を含む110名が石巻市門脇に到着

震災後2年以上過ぎた6月22日、結(ゆい)の花壇づくりのためバス3台に分乗した那須烏山市内全小中高生及びガールスカウト栃木県連盟の子どもたち57名を含む110名が3500の花の苗と共に荒涼とした石巻市門脇に到着しました。



10時過ぎに門脇に到着
尾形さんたちが迎えてくれた



那須烏山をam5時30分バス出発

花壇づくりに熱い想いをい込む門脇の焼きそば店主尾形勝壽さんを始め石巻市立門脇中学生徒や石巻キンボールチームの親子、NPO法人JENのスタッフなど40名が迎えてくれました。大切に育てた苗3500ポットを龍JIN安田さんの2t車で運搬、容器是那須烏山市島崎酒造さん提供 ➡



開会式で那須烏山及び石巻の子どもたちの代表が挨拶

開会式で花壇づくりに掛けてきた想いを子どもたちの代表が紹介し、石巻の児童・生徒の代表がお礼のあいさつを行った後、この日の天気通り清々しく温かな気持ちで花壇づくりが始まりました。



ワイシャツ姿が門脇中学生徒会の皆さんです



門脇中代表



石巻キンボール
チーム代表



那須烏山市立
七合小代表



石巻キンボールチームの紹介



大谷那須
烏山市長



烏山高代表



尾形さんのあいさつ

開会式では各学校や団体の代表が多少緊張しながらあいさつしました

110名超の大勢のボランティアが花壇づくりに取り組む大迫力の光景を見て思わず今日この日を迎えられたことへの感激と感謝の気持ちでいっぱいになりました。



110名が一齐に花壇づくりを始めた迫力満点の石巻市門脇、奥に「がんばろう！石巻」の大看板

門脇には二度と住みたくないと答える悲しい現実

壊滅的な被害を受けた門脇地区は再度住みたいかを問うアンケートに肯定的な回答は4割にも満たないことを尾形さんが話してくれました。

津波の直前まで避難する車が大渋滞だったため多くの人が車の中で犠牲になりました。その車が未だにうず高く積み上げられたままであることや至る所に犠牲者を弔う生花が供えられていること、そして家族全員が犠牲になったため取り壊されない家が残っていたりと悲しい事実が目の前に横たわっているのです。

もう二度と住みたくないと思う悲しみは痛いほど伝わってきます。

もう一度住みたいと思える花のある門脇にしたい

尾形さんは大好きな門脇を再び住みたいと思える街にしたいと願いひまわりを植えるものの塩害で枯れてしまいます。同じ想いで花壇づくりを始めた門脇中の生徒たちと一緒に、花を咲かせる活動を始めます。

ネットで紹介したところ全国から花の種がたくさん届きますが土づくりが必要なため困っているところに私たち龍JINは尾形さんと知り合い「栃木で苗を育て土と一緒に植えにきて欲しい」と頼まれます。

苦難を心の糧に変え自ら考え進んで行動する子どもを育てたい

私は花を咲かせる目的を理解し「自ら考え進んで行動する子ども」を育てる活動につながればこんなに嬉しいことはないと思いました。那須烏山市内の校長先生方に趣旨を説明し「被災者へ思いを馳せ自分たちで育てた花の苗を植えに行きたいと思う活動にしよう」と訴えました。ほとんどの学校が全校を挙げて取り組みたいと答えてくれま



未だにたくさんの犠牲車が



慰霊塔にみんなで手を合わせました



門脇中の花壇「咲かせよう勇気の花」

した。実際に現地に行きたいと手を挙げる子どもはせいぜい小型バス1台程度とみていましたが希望者が殺到し、急遽大型バス2台に増やしても乗り切れないのです。

一部の小学校では校長先生が希望者全員と面談したり最高学年や生徒会に限定するなど嬉しい悲鳴を上げる苦心の定員調整でした。ボランティア募集で希望者を制限するなど前代未聞の出来事だったと中学校長が言っていたのが印象的でした。



各学校に届けた花の種3種類
ヒマワリ、コスモス及び黄花コスモス

苦勞の末に完成した各校の花壇

花壇づくりは津波のガレキだらけの土を耕す困難極まる仕事でした。ガレキが花の苗に変わった自分たちの学校の花壇を見ながら子どもたちは参加した喜びを味わったと思います。



烏山高美術部デザイン「結の花」の看板



各学校が心を込めて作った看板を立てました。石巻市門脇に心温かな風が吹きますように！

花壇づくりに参加した子どもたちの心温まる感想

帰りのバスの中で「地面が固くガラスの破片などでとても大変だったけど石巻の人たちの笑顔が見られて良かったです。次も参加したい」とほとんどの子どもが感想を述べてくれたことから今回の充実振りが分かります。また、「地面から印鑑やいろいろなものが出てきて津波の怖さを思い涙がでました」等、相手を思い遣る気持ちが伝わってきて、とても嬉しくなりました。



固くていろいろなものが出てくる地面に花を植える子どもたち

昼食は浜のお母さんたちの食堂 JEEN から素敵なお弁当

今回の活動で昼食は是非コーストマザーズ JEEN のお弁当を食べたいと思っていました。JEEN は牡鹿半島に住む国家資格「女性漁業士」合格者4人で資格取得を機に「浜の女性も地域貢献を！」と2010年に始めた食堂です。

軌道に乗り始めた時に震災にあい自宅は流出し再活動も諦めますが石巻の魚介類の美味しさを知ってほしいし震災に負けたくないという思いで2012年8月に再オープンします。

何といっても自分たちの浜の食材が自慢で美味しいと喜んでもらうことが一番の励みだと笑顔で話してくれました。メンバーの一人がずっと応援していた荻浜の元区長さんの奥さんであることも最近知ってびっくりしたのです。観光地松島ではアナゴ丼が1300円なのに来てくれることが嬉しいので他に準備できるタコ飯の2種類共600円でいいと言うのです。

いつも応援しているつもりが迷惑をかけているのではないかと今回も思いました。バスの中で大人の参加者に賛同いただきカンパ金をお渡しできてホッとしました。

とても美味しい大量のお弁当に大満足でした。本当にありがとうございました。



JEEN の経緯を話すリーダーの須田さん



イメージキャラクターのどんこちゃん

たくさんの協力者に感謝します

今回の大イベントは尾形さんはじめたくさんの協力者に助けられて実現しました。

各種大会中にも拘わらず開会式に駆けつけてくれた石巻市立門脇中の生徒会の皆さん、交流会まで付き合ってくれた石巻キンボールチームの親子の皆様そして仲立ちをしてくださった門脇中今泉校長先生、いろいろと準備をしていただいた NPO 法人 JEN のスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

カメラを使った活動を通して子どもたちの交流が図れたらいいなと思い企画しましたが余りの参加者が多く実現できなかったことが残念でしたが別の形で子どもたちの交流会を実施してくれた佐藤勝人専務はじめサトーカメラのスタッフの皆様にも感謝です。情熱溢れるガールスカウト指導者の皆様や学校を挙げて今回の活動に取り組み子どもたちを励まし続けてくれた各学校の先生方、龍 JIN スタッフを始め関係いただいた皆様方に感謝申し上げます。現地の皆様が笑顔になることを願いながら子どもたちの心豊かな成長のためにこれからもご協力をよろしくお願いいたします。

